

語 い と 英 語 教 育 （46）

「研究部推奨語い 1800」に基づく語彙指導実践例
生徒が英語で書きたかったけれども書けなかった日本語

2024 年 2 月 22 日

東京都中学校英語教育研究会

研 究 部

《研究部ホームページ <https://sites.google.com/view/tokyo-chueiken-kenkyubu>》

目 次

I. あいさつ	02
II. 昨年度までの研究のあらまし	03
III. 今年度の研究	04
研究テーマ：「研究部推奨語い1800」に基づく語彙指導実践例	
生徒が英語で書きたかったけれども書けなかった日本語	
1 研究の動機	04
2 語彙指導法の紹介	04
3 生徒が英語で書きたかったけれども書けなかった単語	12
IV. 今後の研究	16
V. 参考文献	17
VI. 研究部のホームページについて	18
VII. あとがき	19
巻末資料 研究部の歩み	20
今年度の活動記録	28

I あいさつ

研究成果をどのように活用するのか

東京都中学校英語教育研究会
会長 平岡 栄一
(葛飾区立常盤中学校)

平素より、東京都中学校英語教育研究会の活動へのご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。また、多くの皆様の御指導、御助言をいただき、本研究会研究部における令和5年度の研究成果が結実したことに改めて感謝を申し上げます。

今年度は、第73回全国英語教育研究大会（全英連愛媛大会）および第47回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会大会（関ブロ栃木大会）、また本研究会においても全ての部でワークショップ等が全て対面にて開催され、研究が再び熱を帯びています。

さて、学習指導要領（平成29年改訂）では、目標及び内容が資質・能力の3つの柱で再整理され、観点別学習状況の評価も、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理されました。生徒の学びは教師の学びの相似形と言われますが、本研究から着想した自分の学びを以下、述べさせていただきます。

今年度の研究では、「生徒が英語で書きたいけれども書けなかった日本語」、そして「研究部中学校推奨語い1800」（以下、「推奨語い1800」）を活用した指導の実践例が紹介されている。

それぞれの実践例に目を通すと、日常の授業、生徒とのやりとり、あれこれと試行錯誤する教師の様子などが浮かび上がってくる。またその教師の人柄さえ見えてくるような気がする。授業はその教師が積み上げてきたものであり、生徒との関わりの中で工夫が加えられ、大きく進展することもあれば、停滞もあり、そこに必ず物語がある。研究部の研究授業を観察し、実践の発表に耳を傾けるにあたり、背景にある物語を感じることができたら「語いと英語教育」（46）の魅力がさらに大きなものになると思う。

さらに、本資料を通して、自らの語彙指導やそこにつながる物語を思い起こし、長期に亘る実践の中で、自分はどのように変わってきたのか、なぜそのように指導するのか、そこに生徒や自分の笑顔はあるのか、本当に効果の高い（単純な効率主義や流行りではない）、生徒や教師自身の「主体的に学ぶ姿勢」を育む指導や授業になっているのか等について、他者からの情報を参考として、思考を重ね、問い続け、日々、指導改善が継続されるようでありたい。

さて、「推奨語い1800」は研究部の成果であるが、「語彙」そのものは各個人が個別に蓄えているものであり、語彙の数やそれぞれの単語やフレーズをどの程度的確に操ることができるかは個人の学習状況、興味や関心、周囲の環境等により日々変化する。4技能5領域からなる英語のコミュニケーション能力の構成要素の一つは語彙力であり、英語教師は「推奨語い1800」のリストやその活用実践例を参考として、学習者一人ひとりが自らの語いリストや表現集を作成しようとする意欲や具体的な方法について自らの工夫で支援ができる存在でありたい。

生徒が、受け身ではなく、自らや他者にとっても授業の価値を高める協働者として毎回の授業に参加する、教師はすべきことだけでなく、授業を通して自分が思い描くことが実現できているのか、持続発展する東京や日本、世界を支えるかけがえのない、しなやかでたくましいグローバル人材として生徒も教師も大きく成長させるエネルギーが生み出されるような授業が日々、あらゆる教室の内外で展開されたいと思う。

都中英研各位にあつては、各自のすべきこと、また実現したいこと等を互いの協力により、ゆったりとした気持ちで堂々と達成し、組織の一員としてまた個人として充実した日々を今後もお送りいただけたらと願う。

研究部担当副会長の板垣 繁校長、溪内 明研究部部長をはじめ、研究部員の日々の研究への感謝を申し上げるとともに、研究のさらなる発展を期待し、また心より敬意を表します。

Ⅱ 昨年度までの研究のあらまし

平成 13 年度から 21 年度までの 9 年間にわたって、中学校検定教科書で使用されている語彙リストについて研究を進めた。また、平成 22 年度から平成 25 年度までの 4 年間に研究した辞書指導をもとに、平成 26 年度から平成 29 年度の 4 年間で「生徒の語いサイズを広げる指導の工夫」というテーマを設定し、研究を進めた。

平成 30 年度から令和元年度の 2 年間は、「基本語いの選定」と「語い指導再考」をテーマに、前者は「研究部基本語い 1200」の選定を行い、後者は「新出語いの導入方法の検討」を行った。令和元年度には、「話すこと [やり取り]」における生徒の使用語彙の実態を明らかにし、結果を考察するとともに、「研究部基本語い 1200」(2019)と比較した。また、教科書本文の新出語彙の効果的な導入方法を検討し、指導法の分類を行うとともに、Nation (2007) の The Four Strands の考え方からどのような語彙を使った活動が必要なのか研究した。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、実会場に集まっての研究活動は休止し、全国英語教育研究団体連合会「東京大会 2020 大会レガシー」に、これまでの研究成果として『「語い」指導の充実を目指して』を紙面発表した。

令和 3 年度は、学習指導要領の改訂に伴い、新しい中学校検定教科書(6 社)と小学校検定教科書(7 社)をすべて調査した。使用されている語彙の重なり度を参考に、「研究部中学校推奨語い 1800」・「研究部小学校推奨語い 700」を選定し、中学生が身に付けるべき単語を示した。また、夏季休業中には、「第 18 回研究部ワークショップ」をリモートで開催し、研究部員が実践した指導事例を発表した。

令和 4 年度は、中学校検定教科書における発信語彙、中学生が書く活動で使用した語彙の中間報告、「研究部中学校推奨語い 1800」「研究部小学校推奨語い 700」に基づく実践例を示した。生徒が書いた英作文を分析し、使用した語彙について研究をした。さらに夏季休業中には「第 19 回研究部ワークショップ」を、令和 5 年 2 月には研究発表会を、それぞれリモートで開催し、研究部員による実践を発表した。

以上のように、時世を鑑みて研究テーマを設定し、英語教育現場の指導向上の一助となる情報提供をできるよう努めてきた。

Ⅲ 今年度の研究

1. 研究の動機

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）において、中学校で学習する単語は 1600～1800 語とあり、中学校現場ではどのように語彙指導を行うかが課題となった。学習指導要領解説外国語編では、「生徒の発達の段階に応じて、聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき語彙（受容語彙）と、話したり書いたりして表現できるように指導すべき語彙（発信語彙）とがあり、ここで示されている『1600～1800 語』の全てを生徒が発信できるようにすることが求められているわけではない」（p. 34）とあることから、研究部は令和 4 年度に「研究部中学校推奨語い 1800」と「研究部小学校推奨語い 700」の発信語彙を調査するに至った。

そこで今年度は、令和 3 年度に発表した「研究部中学校推奨語い 1800」を活用した指導法を紹介した。研究部員が日頃の授業で実践している語彙指導を毎月の部会で紹介し、部員同士の話し合いを経て、指導法の改善を図った。また、受容語彙・発信語彙の観点からそれらの指導法を区別するとともに、Nation (2001) の “What is involved in knowing a word?” を参照し、語形 (Form)・語義 (Meaning)・使用 (Use) のどれにあたるかも明確にした。

今年度は令和 4 年度の研究に引き続き、生徒が書くことの活動において「英語で書きたかったけれども書けなかった日本語」を紹介する。令和 4 年度は中学生が書く活動で使用した語彙を紹介したが、今回はその際に調査した結果を報告する。

2. 語彙指導法の紹介

- 5 月： 初期指導における生活語彙の導入
- 6 月： 繰り返し行う教科書本文を用いたスキット・リプロダクション・リテリング
教科書本文を活用した語彙指導の実践
- 7 月： 教科書本文 (dialog) を活用した表現練習 / Vocabulary Box を用いた表現練習
オーラル・イントロダクションによる語彙の導入
- 9 月 英語が苦手な生徒でも自学自習ができる語彙指導の試み
習得した動詞と名詞を土台に既習文型を用いて表現する練習

語彙指導法は基本的な意味や綴りの確認から産出活動を通しての定着と多岐にわたっていた。部員同士で話し合うことで、活動の幅を広げたり深めたりすることが可能であるといった気づきもあった。このように教師同士で指導法を紹介し合い、より効果的な指導法について話し合うという活動が、生徒に楽しく学習に取り組む機会を提供することに繋がると実感した。

語形・語義・使用は、Nation (2001) の “What is involved in knowing a word?” を参照しており、語形は綴りや接頭辞・接尾辞を指し、語義は単語の意味であり、使用はコロケーションや単語がどのような場面や文脈で使われるかという働きを指している。単語を理解するということはこれらの 3 要素を知っていることが肝要であるが、日本の中学校における英語教育では、使用の指導が少なく（『語いと英語教育 (45)』参照）、意識して増やしていきたい項目である。

初期指導（４～５月）における生活語彙の導入

高杉 達也

1. 受容・発信
2. 語形・語義
3. 導入・定着
4. 対象学年 第1学年
5. 活動の目的

東京都中学校英語教育研究会研究部（2021）の調査によると、小学校検定教科書では、言語活動の際に使用するための言語材料として多くの生活語彙が扱われている。一方で、中学校検定教科書における生活語彙の取り扱い、使用される題材によって左右されることが大きく、小学校で触れたものに再度触れる機会が保障されていない。

しかし、日常的な話題について発信する際には、生徒が生活語彙を使いたいと思う可能性は高く、語彙の定着には繰り返しが欠かせないことから、この初期指導期間に生活語彙を扱うことで、受容語彙としてだけでなく、発信語彙としてこれらを活用することができる力を育成することをねらいとする。

6. 活動の手順

(1) 「リビング、台所、ダイニング」(図1)

リビングや台所といった家庭にある名詞を学習する。生徒が知っている語彙もあるので、まずは生徒が言った後に、正しい発音を復唱する。一通り復唱し終えた後、リズムに合わせてチャンツのように発音する。

(2) 「これは誰の～ですか？／それは…の～です。」(図2)

生徒や教師の持ち物を使って “Whose ... is this / that?” と “It is ○○’s ...” “It is my / your ...” を口頭で導入および練習した後、図2のハンドアウトを用いて口頭練習する。このハンドアウト内にも生徒が使う可能性がある生活語彙を含んでいる。

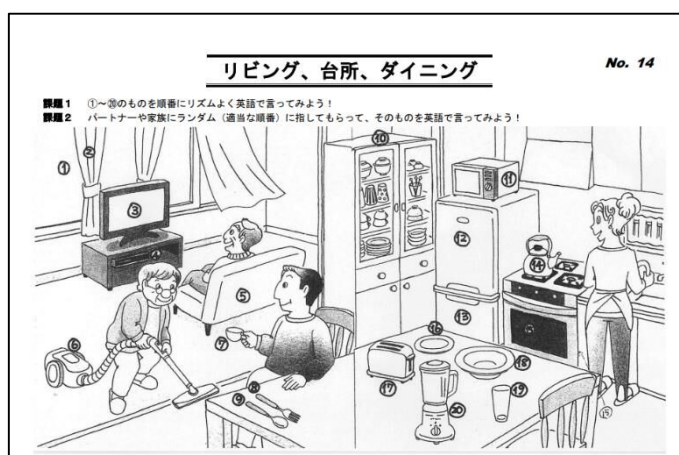


図1 リビング、台所、ダイニング



図2 これは誰の～ですか？

繰り返し行う教科書本文を用いたスキット・リプロダクション・リテリング

島田 拓

1. 発信
2. 語形・語義
3. 定着

4. 対象学年 第1学年

5. 活動の目的

文脈の中で新出単語の意味や形を理解して使うことができる。

6. 活動の概要

教科書本文の場面を利用し、生徒は登場人物になりきり、英語を話す。

(1) スキット

三人称単数・現在形の文法を学習する前に行う。

(2) リプロダクション

三人称単数・現在形の文法を学習する前に、一人称単数・複数・現在形で行う。

(3) リテリング

三人称単数・現在形の文法を学習した後、スキットやリテリングを行った場面で、第三者の目線からリテリングを行う。リテリングを行う際は、登場人物について話す目的・場面・状況を設定し、本文の一人称・二人称を三人称に置き換えて行う。

7. 活動の手順

本文の導入と内容理解、新出語句の意味の確認と発音練習をし終えた後、以下の手順で行う。

- (1) ピクチャー・カードを用いて、生徒とインタラクションしながら、本文の場面と内容を確認する。
- (2) 本文の音読練習をする。
※ クラス全体や個別で音読し、必要に応じて発音を確認したり、練習したりする。
- (3) 活動の手順について説明する。
- (4) スキット・リプロダクション・リテリングを行う（教科書を見ないで話す）。【1回目】
- (5) 中間指導

生徒とインタラクションしながら、生徒が (4) で話した英文と内容に対して、教師がフィードバックを行う。

指導例 (NEW HORIZON English Course 1 Unit 3 Part 3)

T: What did you say, student A?

A: I'm Meg. I bring rackets, shoes, towels, and water bottle.

T: Oh, you bring rackets, shoes, towels, and a water bottle.

T: Repeat, class. I bring rackets, shoes, towels, and a water bottle.

T: What did you say, student B?

B:

T: (PC を見せながら) How many rackets do you have?

B: Two.

T: Good! You can say I have two rackets.

Repeat after me. I have two rackets.

B: I have two rackets.

T: Repeat, class. I have two rackets.

S: I have two rackets.

(別の生徒に会話内容を尋ねる。また、必要に応じて以下のような質問をし、クラブについて話せることを確認する。その後、必要に応じて、再度教科書を読ませる。)

- What club are you in, Meg?
- When do you practice?
- When are you off?
- When do your coaches come?

(6) 再度 (4) の活動を行う（教科書を見ないで話す）。【2回目】

生徒の発言を用いて、英語で表現できることを共有する。

自分から英語や表現する内容が出てこない生徒に対しては、発問を投げかけたり選択肢を与えたりして、英語や表現できる内容を確認する。

教科書本文を活用した語彙指導の実践

長谷川 眞司

1. 受容・発信
2. 語形・語義・使用
3. 導入・定着
4. 対象学年 第2学年
5. 活動の目的

「研究部中学校推奨語い 1800」に関して、部員の日頃の語彙指導実践で、Nation (2001)の語形・語義・使用における使用の指導がもっとも少なかった。そのため、研究部推奨語いを授業で提示し、実際に語彙を使用することをねらいとする。

6. 活動の手順

(1) 語彙力を高める新出単語の指導 (図1・図2)

新出単語の指導をする際は、単語の綴りだけではなく画像やイラストと一緒に示すことで、単語の意味を推測させ、理解させる。その際に、happy → happiness, sell → buy など研究部推奨語い (下線部の語) となる派生語や反意語と繋げて覚えさせることで、学習しなければならない単語と出会う回数を増やし、研究部推奨語いの定着を図る。

(2) リテリングにおける発信語彙の使用 (図3)

教科書本文に関してリテリングを行う際に、内容に関連する文を生徒が作り、本文に挿入することで発信語彙を使用する機会を与える。まずは教師が、教科書本文に挿入する文を例示する (図3のように、He knows every street there. の後に、He often goes to clothes shops. といった文脈に合う文を挿入する。下線部の語は研究部推奨語いにあたる)。その後、例を参考に生徒に表現したい内容を考えさせる。その際に、本文内容に関連する研究部推奨語いを板書することで、生徒が表現しやすいように工夫する。

(3) スキットにおける語彙の活用 (図4)

スキットを行う際に、どのような語彙を使えば、会話を深めることができるか生徒に考えさせ、その後、研究部推奨語いを例示する。図4のように教科書本文の対話に空所を作り、研究部推奨語い (pretty, beautiful, nice, perfect など) を使って自由に会話を続けさせる。

図1



図2



図3

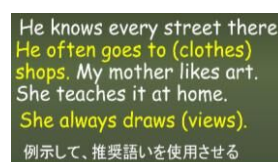


図4



教科書本文 (dialog) を活用した表現練習

多田 翔

1. 発信
2. 語義・使用
3. 定着・応用
4. 対象学年 全学年
5. 活動の目的
 - (1) 教科書の内容理解を深め、自己表現する力を高める。
 - (2) 音読指導の効果を高める。
6. 活動の手順
 - (1) 教科書本文の指導後、本文 (dialog) に適切な目的・場面・状況を加えてより具体化し、それに続く英語を生徒に自由に表現させる。その際、「研究部中学校推奨語い 1800」から抽出した単語をリストにして生徒に補助資料として提示し、活用させる。
 - (2) 「話すこと [やり取り]」や「書くこと」の指導において、生徒の即興力や正確さを高めることを目的とする。また、英語で言いたかったけれども言えなかった表現を、振り返りシートに記録させる。
7. その他
 - (1) 本活動は、文脈 (context) や会話 (discourse) の質をさらに高めることができる。学年が上がるにつれて、本活動を「使用」の指導に近づけることが可能となる。
 - (2) 「研究部中学校推奨語い 1800」からリストに入れる単語を抽出する際は、「食べもの」や「スポーツ」など、トピック別に分類することも効果的である。

Vocabulary Box を用いた表現練習

1. 発信
2. 語義
3. 定着
4. 対象学年 全学年
5. 活動の目的
 - (1) 帯活動の一環で行い、語彙の定着を高める。
 - (2) 学習に対する主体性を高め、辞書の活用を促す。
6. 活動の手順
 - (1) Vocabulary Box (プラスチック箱) の中から代表生徒がカード（「研究部中学校推奨語い 1800」の重なり度 6 から精選した単語カードのこと）を一枚引き、そのカードに書かれた単語をクラス全体に伝える（例：always）。
 - (2) ワークシートにその単語を使用した英文を書かせる。制限時間は 30 秒で行う。生徒は辞書を使ってもよいこととする（例：My father is always busy.）。
 - (3) 回答をペアやグループで共有し、英文 (Good Sentences) をクラス全体で紹介し合う。
7. その他

応用・発展編として、以下の 3 点が挙げられる。

 - (1) 制限時間を 60 秒にして、書かせる英文を 1 文から複数の文にする。
→ 前後の文脈が生まれ、Use (使用) に繋がる。
 - (2) リレーライティング活動 (グループ活動) を行う。
→ カードに書かれた単語を使って作文させ、2～4 文目に関しては、グループ内で協力してストーリーを作る。
 - (3) 単語学習ソフトウェア Quizlet を活用してコロケーションを指導する。
→ 生徒の回答を素材として集約したものを生徒に提示し、さらなる語彙の定着を目指す。

オーラル・イントロダクションによる語彙の導入

大島 良一

1. 受容
2. 語義
3. 導入
4. 対象学年 第2学年
5. 活動の目的
新出の語彙を目的・場面・状況を意識しながら音声で導入して語義を理解させる。
6. 活動の手順
 - (1) 絵、写真、実物などを提示する。
 - (2) 教師は教科書本文の内容を使って学習者とインタラクションしながら語彙を導入する。
 - (3) 日本語を使用せずに同義語、対義語、言い換え、ジェスチャー、説明、例文などを用いて語義を理解させる。
7. その他
 - (1) 教材
教科書 : *SUNSHINE ENGLISH COURSE 2*
場面 : PROGRAM 1 Start of a New School Year
Think 3 「カナダに出発する前、美希はダニエルにメールを送りました。」
 - (2) 具体例
T: What is Miki doing?
S: She is using a computer.
T: Right. She is using a computer and sending an email.
What party did she have before?
S: She had a farewell party.
T: Okay. Miki had a great time at the party.
What are her friends doing?
S: They are singing.
T: Good. Her friends sang a song for her.
Class, repeat, “sang.”
S: “Sang.”
T: Repeat, “sang a song.” (sang の使用例)
S: “Sang a song.”
T: Good job. Then, Miki listened to the song and almost cried. She didn’t cry but she was going to cry. (almost の説明)
Class, repeat, “almost.”
S: “Almost.”
T: Repeat, “almost cried.”
S: “Almost cried.”
T: Repeat, “cry.”
S: “Cry.”
T: Good. Miki is going to move to Canada and it will be her first long stay overseas. It will be the stay in a foreign country or another country. (overseas の言い換え) “Overseas” means “in foreign countries” or “in other countries.” (overseas の説明)
Class, repeat, “overseas.”
S: “Overseas.”
T: Repeat, “stay overseas.” (overseas の使用例)
S: “Stay overseas.”
T: Well done. She will miss her friends in Canada soon, so she wants to have emails from them.

英語が苦手な生徒でも自学自習ができる語彙指導の試み

福島 恵子

1. 発信
2. 語義・使用
3. 定着
4. 対象学年 第2学年
5. 活動の目的
 - (1) 学習活動や言語活動に対して消極的な生徒に学習方法を示し、英語を学ぶ喜びを実感させる。
 - (2) 英語で表現したものが学習の記録として生徒に残るようにし、家庭学習への橋渡しをする。
6. 活動の手順
 - (1) 学習方法の一つを提供するために
新出単語の導入は、小道具（実物、絵や写真、おもちゃなど）を見せながら、音声のみで行い、文字は提示しない。その後、小道具を見せながら発音し、単語カードで文字を見せる。研究部推奨語彙の発信語彙の書く練習を練習用ノートに行い、定着を図る。以下の方法から一つ選んで行う。
 - ① 発音した単語を書く単語練習
教師が発音した単語を即時に発音しながら、書くことを4回繰り返す。
 - ② 記憶に負荷をかける単語練習（例）
 - (ア) 教師が「父」と日本語で言い、生徒はその単語を英語で書く。次に「母」と教師が別の単語を日本語で言い、生徒はその単語を英語で書く。
 - (イ) 教師が続けて、「父」「母」と日本語で言い、生徒はその2つを英語で書く。
 - (ウ) 教師が続けて、「父」「母」と日本語で言い、生徒はその単語のイメージを思い浮かべながら、小さな声で10秒間英語で繰り返し言う。10秒後、タイマーの合図でその2つを英語で書く。
 - (エ) 教師が続けて、「父」「母」と日本語で言い、生徒はその語のイメージを思い浮かべながら、黙ったまま10秒待つ。その後、教師の合図でその2つを英語で書く。
 - (2) 英語で表現できる喜びを実感させるために
研究部推奨語彙を用いて以下の活動を行うことで、語彙の活用を体験させる。
 - (ア) 教科書本文の内容と関連したテーマで自分の考えを話したり、まとまりのある英文を自己表現ノートに書いたりする。これが生徒の学習の記録となる。
 - (イ) 生徒の興味・関心のある語句や生活語彙などを取り上げた「Speakingにトライしよう」のハンドアウトを用いて活動を行う。このプリントでは質問と答えが決まっている。例えば、“How will the weather be tomorrow?” に対して答える単語が書かれており、生徒はそれらの中から選択し応答する。中には、根拠となる理由を付け加える生徒もいる。この活動を通して、英語に対する抵抗感を軽減することをねらいとする。
 - (ウ) 1分間チャットを行うための「Chatにトライしよう」のハンドアウトを用いて活動を行う。“How was your summer vacation?” “What do you do on weekends?” など、自分なりの答えが出る文をQ&Aで練習する。答えは1文ではなく、2文以上で応答するように指導する。加えて、「英語で言いたかったけれども言えなかった表現」を日本語で書かせ、教師がフィードバックを行う。チャットの内容を提出させることもある。

習得した動詞と名詞を土台に既習文型を用いて表現する練習

一ノ瀬 麻子

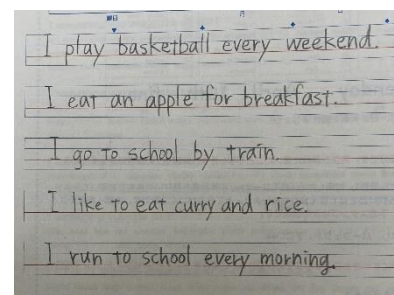
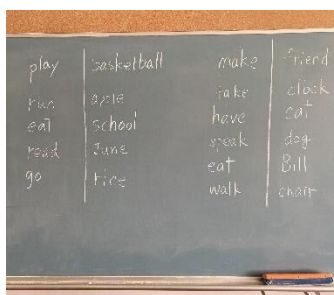
1. 発信
2. 使用
3. 定着
4. 対象学年 第1学年
5. 活動の目的

身に付けた動詞と名詞を使って表現し、既習文型や語彙の定着を図る。

6. 活動の手順
 - (1) 生徒を人数が均等になるようにグループ分けする。
 - (2) 制限時間内でできるだけ多くの動詞を黒板に書く。各グループで一人ずつ順に動詞を一つ書く。
 - (3) 単語の綴りが正しければ、1語につきそのグループに1点を与える。
 - (4) 黒板の動詞は消さずに残し、名詞を同様に一つ書く。
 - (5) 単語の綴りが正しければ、1語につきそのグループに1点を与える。
 - (6) 自分のグループが書いた動詞と名詞を使って、一人1文以上ノートに書く。グループでそれぞれが書いた文を点検する。誤りがないことを確認したら起立し、一人1文ずつ書いた文を口頭で言う。このときグループ内の生徒が同じ文を言わないこととする。先に起立したグループから順に発表する。
 - (7) グループ全員が正しい文を言い、正確に書くことができた場合、正解とする。1番早くに正解したら5点、2番目に正解したら3点というように、グループの得点に加点する。誤りがある場合、教師が誤りを訂正するように促す。ただし、どこに誤りがあるのかは生徒に考えさせ、グループで協力して取り組ませる。
 - (8) (3)(5)(7)の合計得点で勝敗を決める。
7. その他
 - (1) 英語が得意でない生徒に対しては、(2)(4)(6)の活動において、同じグループの生徒が手助けをする。ただし、黒板やノートには自分で書かせる。協力して全員が参加するようにする。
 - (2) 肯定文、疑問文、否定文、現在進行形、助動詞の文、現在完了形など、さまざまな文型に応用することができる。

板書例

Group A		Group B	
play	basketball	take	house
drink	dinner	walk	father
eat	cake	talk	rice
run	piano	have	tree
swim	milk	see	cat



3. 中学生が書くことの活動において英語で書きたかったけれども書けなかった日本語
中学生が書くことの活動において、どのような日本語を英語で書きたいと思っているのかを明らかにし、書くことにおける効果的な語彙指導の一助とする。以下に書くことの活動の手順と「英語で書きたかったけれども書けなかった日本語」の測定方法を示す。詳細は「語いと英語教育 (45)」を参照していただきたい。

(1) 調査対象

令和4年度研究部員の勤務校（延べ15校）に在籍する中学校1～3年生、585編の英作文を提出する際に生徒が回答した「英語で書きたかったけれども書けなかった日本語」を調査対象とした。

(2) 調査方法

- ① 生徒は教師が与えたトピックについて、生徒が自由に書くことができるよう、散文体で書くよう指示した。なお、現行の学習指導要領には目的・場面・状況を設定するよう言われているが、目的や場面が生徒にとってなじみがあるのかは個人差がありうることを考慮して、本調査では目的・場面・状況を設定しなかった。
- ② 9つのトピック（Sports, Food, Season, Free time, My favorite person, My favorite place, My school, Vacation, Weekend）について書く活動を行った。実施時期および教科書の既習文構造を踏まえて、全学年が実施しやすいトピックを選定した。
- ③ 英作文を書かせる時間は1トピックあたり、3分間とした。生徒が集中してある程度まとまりのある英文を書くのに必要な時間であり、また、各校の授業でさまざまな指導が展開されている中でも、帯活動として実施しやすい時間と考えた。
- ④ 指導した時期は6～9月で、週に1つずつのトピックを全9回（6月4回、7月3回、9月2回）指導した。
- ⑤ 通常の英語科の授業において、教師の指示によって、生徒は一斉に与えられたトピックで3分間書くことの活動に取り組んだ。その後、「英語で書きたかったけれども書けなかった日本語」を書くよう指示した。
- ⑥ 分析方法は、各単語を品詞ごとに分類した。その際、KH Corder の分類も参照しながら、以下の点について配慮した。
 - (ア) 国語辞典に載っているカタカナ語は品詞分類に含むが、国語辞典に載っていないカタカナ語は英語とした。
 - (イ) 名詞は固有名詞を含むとした。
 - (ウ) 「優勝」と「優勝する」について、前者は名詞で後者は動詞とした。
 - (エ) 助詞は名詞と共に数えられていることが多いが、本研究では助詞は分析対象外なので、そのままにした。
- ⑦ 分析の視点は以下の通りである。
 - (ア) 生徒はどのような日本語を英語で書きたいと思っているのか
 - (イ) 生徒が「英語で書きたかったけれども書けなかった日本語」はどのような品詞が多いのか

(3) 調査結果・考察

「英語で書きたかったけれども書けなかった日本語」の一覧（付録1～9）と品詞別分類（表1）を参照しながら結果と考察を述べる。

- ① 各トピックの「英語で書きたかったけれども書けなかった日本語」(以下、「書きたい語」)は付録 1～9 (「Ⅲ. 今年度の研究」の終わりに掲載)の通りである。
Vacation でもっとも多くの種類の単語が挙げられ、**Weekend** がもっとも少なかった。
Vacation は生徒の夏休みの過ごし方や楽しみ方が多岐にわたることが考えられる。生徒は「楽しい思い出なので、伝えたい」と動機が高まっていることが予想されるので、伝えたい内容を書ける技能と辞書やインターネットで単語を探し出すスキルを身に付けさせたい。

生徒は既習の単語を「書きたい語」に挙げることもあり、書くことは4技能5領域の中でも難易度が高いことが実感させられた。一度教えるのみならず、オーラル・イントロダクションやスモール・トークなどで、教師が定着させたい語を意識的に複数回使用し、生徒に触れさせる機会を増やすことで、発信語彙になるよう指導する必要がある。なお、一つの単語を定着させるには、6～7回出会う機会を作る必要があると言われている。

- ② 「書きたい語」は、名詞が一番多く、次に動詞・形容詞・副詞と続き、98%が内容語であった。表現活動では、内容語が重要となり、さらにはトピックによって共通して挙げられる単語と生徒が書きたい内容によって挙げられる単語が大きく異なることがあるので、教師は生徒が書きたい単語を予想したり、生徒に自分で調べるように促したり、個々の学習状況や生徒の英語熟達度に応じて適切に対応することが求められる。

形容詞に着目すると、例えば**Food**では10個のうち7個が味を表す単語が挙げられている。「研究部小学校推奨語い700」に生活語彙が多く取り上げられているのに対し、「研究部中学校推奨語い1800」では検定教科書の本文の内容を反映した国際交流・環境・社会問題等の題材が扱われることから、取り上げられている語彙の質が変わってしまう。しかし、生徒が今回挙げた単語から、生活語彙を教えたり、必要に応じて自分で調べることのできるスキルを身に付けさせたりする必要があることを改めて実感させられた。

表1 「英語で書きたかったけれども書けなかった日本語」品詞別分類 (語)

-	名詞	代名詞	動詞	形容詞	副詞	前置詞	接統詞	計
Sports	117	0	57	18	19	0	0	211
Food	151	0	36	39	14	2	2	244
Season	112	1	28	21	17	0	7	186
Free time	120	5	72	17	27	3	6	250
Person	141	8	52	40	12	5	1	259
Place	130	4	35	40	32	0	9	250
School	122	4	36	55	32	5	6	260
Vacation	181	0	48	25	28	0	0	282
Weekend	114	0	33	16	21	0	0	184
延べ数	1188	22	397	271	202	15	31	2126

③ まとめ

本研究冊子 pp. 5-11 の語彙指導実践例紹介は、基本的な意味や綴りの確認から産出活動を通しての定着と多岐にわたっていたが、中でも、リテリング活動などの産出活動によって生徒が実際に単語を使いながら学習できるように授業を構成している点が共通していた。その中で、少しでも生徒が新出単語を効果的に学習できるように、さまざまなテクニックを駆使していることが窺えた。

研究部員同士で指導実践を紹介し合うことで、活動の幅を広げたり深めたりすることが可能であり、教師同士による話し合いがより効果的な指導法を開発し、生徒が楽しく学習に取り組む機会を提供できることを実感した。

本研究冊子 pp. 12-13 の「書きたい語」の研究では、必要最小限の単語を流暢に使うことができるように身に付けさせるのと同時に、トピックによって生徒が書きたい内容は多岐にわたり、必要な単語も一人一人異なるので、自分で調べ、判断し、適切に使えるようにするために、辞書指導がなお一層必要であると分かった。これは中学生を対象にした書くことの活動では何を書くかが明確であっても、英語で何と書いたらいいか分からないことで書く意欲を減退させてしまうことがあるからである。

また、昨今ではインターネットでオンライン辞書や生成 AI の使用も可能であることから、何も見ないで書くことも重要だが、オンライン上のツールを使えるように指導することも将来のことを考えると必要であり、教師が学習到達目標や活動の目的によって、これらのツールを使い分けることが求められる。

生徒には「書きたい語」を日本語で書くよう指示をしたが、例えば「～する」という回答を得ても、「(スポーツ) をする」「(ゲーム) をする」「(宿題) をする」など、どの単語を知りたいのか明確に判断できないこともあり、生徒には文や句で回答を得た方が的確に書きたい語を判断できてよいかもしれないと言える。また、今後は調査を行う際に、単語 (word) のみならず、formulaic (句単位の定型表現、コロケーションや連語・熟語・句動詞などを含む) に指導する視点も必要であると言える。

付録1 英語で書きたいのに書けなかった日本語品詞別一覧:Sports

※斜線部分はあてはまる単語がなかったことを示す。

Sports	名詞	頻度	代名詞	頻度	動詞	頻度	形容詞	頻度	副詞	頻度	前置詞	頻度	接続詞	頻度
1	スポーツ	11			なる	6	楽しい	10	とても	5				
2	陸上	9			ある	5	よい	7	ない	3				
3	競技	6			習う	5	元気 (な)	6	一番	2				
4	ポジション	6			練習する	4	得意 (の)	6	たくさん	2				
5	リレー	6			知る	4	難しい	3	少し	2				
6	おすすめ	4			影響する	3	簡単 (な)	2	特に	2				
7	ペア	4			運動する	3	苦手 (な)	2	年中	2				
8	試合	3			勝つ	3	上手 (な)	2	昔	2				
9	競技	3			憧れる	3	大切 (な)	2	昨日	2				
10	ダブルス	3			走る	3	悔しい	2	前	2				

付録2 英語で書きたいのに書けなかった日本語品詞別一覧:Food

Food	名詞	頻度	代名詞	頻度	動詞	頻度	形容詞	頻度	副詞	頻度	前置詞	頻度	接続詞	頻度
1	寿司	10			好き	15	美味しい	14	特に	7	(自分) で	2	なぜなら	1
2	ラーメン	9			食べる	11	甘い	6	ない	6	(大阪) で	1	だけど	1
3	味	8			いる	4	酸っぱい	4	一緒	3				
4	料理	8			嫌い	4	お気に入りの	3	ほとんど	2				
5	フルーツ	7			する	4	甘酸っぱい	3	たくさん	2				
6	野菜	7			料理する	4	辛い	3	例えば	2				
7	ご飯	6			合う	3	しょっぱい	3	少し	1				
8	サーモン	6			ある	3	苦い	2	実際	1				
9	ネタ	6			あぶる	2	外国の	2	色々	1				
10	お気に入り	4			作る	2	ふわふわ	2	最近	1				

付録3 英語で書きたいのに書けなかった日本語品詞別一覧：Season

Season	名詞	頻度	代名詞	頻度	動詞	頻度	形容詞	頻度	副詞	頻度	前置詞	頻度	接続詞	頻度
1	夏	19	私の	1	～がある	6	暑い	8	ちょうど	2			なぜなら（ば）	6
2	秋	14			～が好き	4	美しい	6	今	2			～から	4
3	冬	12			遊ぶ	4	暖かい	5	最近	2			だから	2
4	春	10			嫌い	3	良い	5	また	1			～なので	1
5	夏休み	9			雪が降る	2	寒い	4	～すぎる	1			～しながら	1
6	プール	8			旅行する	2	涼しい	4	2番目に(春が好き)	1			そして	1
7	誕生日	7			～が咲く	3	きれい	4	それほど	1			だけど	1
8	虫	7			汗をかく	2	過ごしやすい	3	のびのびと	1				
9	夏祭り	7			降る	2	おいしい	3	ほぼ毎日	1				
10	かき氷	6			(花火)が行われる	1	多い	2	他にも	1				

付録4 英語で書きたいのに書けなかった日本語品詞別一覧：Free time

Free time	名詞	頻度	代名詞	頻度	動詞	頻度	形容詞	頻度	副詞	頻度	前置詞	頻度	接続詞	頻度
1	ゲーム	8	私	2	遊ぶ	9	面白い	6	少し	8	(自由時間)に	4	(暇な)とき	5
2	自由時間	6	僕	1	寝る	9	楽しい	5	たまに	4	(友達)と	1	もし～したら	1
3	友達	5	私の	1	ゲームをする	7	暇な(とき)	4	みんな	3	～するために	1	(～がある)とき	1
4	ユーチューブ	4	どこ	1	見る	6	(～することが)多い	1	一緒に	3			(楽しい)から	1
5	準備	3	なに	1	読書する	4	うるさい	1	最近	2			なぜ(やりたい)のかというと	1
6	キャラクター	3			話す	4	うれしい	1	また	2			でも	1
7	絵	3			描く	4	かわいい	1	しばしば	2				
8	お気に入り	2			ボーっとする	3	使いやすい	1	たくさん	2				
9	映画館	2			勉強する	3	好きな	1	時々	2				
10	鬼ごっこ	2			ごろごろする	2	得意な	1	週に(6回)	1				

付録5 英語で書きたいのに書けなかった日本語品詞別一覧：My Favorite person

Person	名詞	頻度	代名詞	頻度	動詞	頻度	形容詞	頻度	副詞	頻度	前置詞	頻度	接続詞	頻度
1	人	9	彼（は）	2	尊敬する	3	かわいい	11	とても	4	いっしょに	2	なぜなら～だからです	3
2	キャラクター	8	私に（とって）	1	出演している	2	面白い	11	いつも	1	～みたいに	1		
3	友達	7	私（も）	1	努力する	2	優しい	9	すごく	1	のような	1		
4	（性格が）天然	3	彼の	1	憧れる	2	かっこいい	6	たまに	1	（私）にとって	1		
5	ユーチューバー	3	彼ら（は）	1	上手になりたい	1	仲の良い友達	4	なぜ（好きか）	1	（僕）と	1		
6	先生	3	彼女たち（は）	1	（動画）を上げる	1	楽しい	4	一目で（好きになった）	1				
7	理由	3	彼女（は）	1	テクニックがある	1	すごい	3	また	1				
8	アニメ	3	僕（と）	1	（テレビによく）出る	1	頭がいい	3	何度も	1				
9	イケメン	2			話が合う	1	いない	3	（楽し）そうに	1				
10	推し	2			（人の心）を読む	1	うまい	2	早朝に	1				

付録6 英語で書きたいのに書けなかった日本語品詞別一覧：My Favorite place

Place	名詞	頻度	代名詞	頻度	動詞	頻度	形容詞	頻度	副詞	頻度	前置詞	頻度	接続詞	頻度
1	場所	11	私の	3	落ち着く	18	好きな	5	とても	2			なぜなら	7
2	家	9	自分の	2	リラックスする	5	おいしい	3	他にも	2			なぜかという～	2
3	図書館	4	僕は	1	～がある	3	静かな	3	よく（しばしば）	2			～して	1
4	部屋	4	そこ	1	～がいる	2	安心な	2	～回	1			～しても	1
5	アトラクション	3			～が好き	2	お気に入りの	2	～しか	1			そして	1
6	公園	3			遊ぶ	2	落ち着ける	2	すごく	1			だから	1
7	リラックス	3			安心する	2	面白い	2	いつでも	1			でも	1
8	家族	2			集中する	2	快適な	2	一番	1			なぜ好きかという～だから	1
9	キャラクター	2			疲れを取る	2	たくさんの	2	あまり	1			理由は～	1
10	ゲーム	2			ゆっくりする	2	楽しい	2	どちらかという～	1				

付録7 英語で書きたいのに書けなかった日本語品詞別一覧：My school

School	名詞	頻度	代名詞	頻度	動詞	頻度	形容詞	頻度	副詞	頻度	前置詞	頻度	接続詞	頻度				
1	中学校	11	私は	2	～がある	8	楽しい	14	たくさん	4	AからB	1	なぜなら	3				
2	先生	9	自分は	1	～がいる	5	きれい	8	とても	4	～の中に	1	～だから	1				
3	給食	9	彼女は	1	教える	3	明るい	8	すごく	2	～では	1	そして	1				
4	校舎	8	～はいつ	1	通う	3	おいしい	7	特に	2	～について	1	それに	1				
5	校庭	7			～部に入っている	2	広い	6	これまでに	2	～の近くに	1	だから	1				
6	部活動	6			～と言います	1	面白い	5	毎日	2	～にとって	1						
7	教室	4			～に来た	1	優しい	4	～とき	1								
8	行事	4			(時間)がかかる	1	元気な	3	～と一緒に	1								
9	体育館	4			～がしっかりできる	1	怖い	3	～のおかげで	1								
10	あいさつ	3			1位2位を争う	1	汚い	2	1週間に1日	1								

付録8 英語で書きたいのに書けなかった日本語品詞別一覧：Vacation

Vacation	名詞	頻度	代名詞	頻度	動詞	頻度	形容詞	頻度	副詞	頻度	前置詞	頻度	接続詞	頻度
1	夏休み	6			する	20	楽しい	8	ない	3				
2	海	5			行う	17	ない	3	一緒に	3				
3	塾	5			ある	4	少ない	2	毎年	3				
4	アトラクション	4			やる	3	多い	2	なぜ	2				
5	夏	4			楽しむ	3	大変な	2	一緒に	1				
6	大会	4			見る	3	短い	2	いっぱい	1				
7	遊園	4			できる	2	美しい	2	ゴロゴロ	1				
8	旅行	4			過ごす	2	うらやましい	1	すぐ	1				
9	ゲーム	3			頑張る	2	おいしい	1	だいたい毎日	1				
10	ばあちゃん	3			落ち着く	2	おもしろい	1	たくさん	1				

付録9 英語で書きたいのに書けなかった日本語品詞別一覧：Weekend

Weekend	名詞	頻度	代名詞	頻度	動詞	頻度	形容詞	頻度	副詞	頻度	前置詞	頻度	接続詞	頻度
1	勉強	6			する	16	よい	8	週末	6				
2	ゲーム	4			やる	4	ない	7	たくさん	4				
3	テスト	4			ある	4	楽しい	3	ずっと	3				
4	練習	4			借りる	2	得意	3	とても	3				
5	合格	3			出かける	2	うれしい	1	今週	3				
6	受験	3			怠ける	2	おかしい	1	来週	3				
7	教科	3			癒す	2	面倒くさい	1	その後	2				
8	スコア	2			遊ぶ	2	面白い	1	ひたすら	2				
9	タイトル	2			なる	2	多い	1	いつも	2				
10	ユーチューブ	2			使う	2	忙しい	1	一番	2				

IV 今後の研究

生徒が「英語で書きたかったけれども書けなかった日本語」（以下、書きたい語）については、「研究部中学校推奨語い1800」にどのくらい含まれているかを調査する必要がある。教科書に掲載されている単語の定着を図ることで、生徒の書くことに対する負担を軽減できることを証明したいと考えている。また、9つのトピックすべてに共通して「書きたい語」として回答されている単語を調べることで、書くことの教室指導に生かせるようご紹介したいとも考えている。

今回の調査では、「書きたい語」の中には文や句の回答も多く、それらを集めて分析して、名詞句や句動詞として生徒に教えることも一考かと思う。単語のみならず、単語は目的・場面・状況の中で初めて意味や働きが分かることから、句で教える感覚が教師に必要かもしれないという意見もあり、今後は、単語のみならず、生徒が書きたいあるいは話したい名詞句や句動詞について考える視点も加えていきたい。

さらに、昨年度からの研究に引き続き、「研究部推奨語い1800」を基に、中学生に必要な発信語彙を紹介していくことも考えられる。また、教科書の題材において、どのような語彙を必要としているかを調査することも中学校における教室指導の助けになることが期待される。

最後に、語彙指導法については、ICTが進むにつれて、教室指導も生徒の家庭学習の方法も変わることが考えられるので、時代の流れに応じた指導法の開発にも取り組んでいきたい。

V 参考文献

東京都中学校英語教育研究会研究部（2021）「語いと英語教育（43）」

東京都中学校英語教育研究会研究部（2022）「語いと英語教育（44）」

東京都中学校英語教育研究会研究部（2023）「語いと英語教育（45）」

中田達也（2019）「英単語学習の科学」研究社.

文部科学省（2017）「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）」

Nation, I. S. P. (2001). *Learning Vocabulary in Another Language*. Cambridge University Press.

Webb, S., & Nation, I. S. P. (2017). *How Vocabulary Is Learned*. Oxford University Press.

VI 研究部 ホームページ移行（リニューアル）のお知らせ

いつも研究部ホームページをご覧いただきありがとうございます。

この度、研究部ではホームページを全面的に刷新し、皆様によりよく研究部の活動や研究内容を知っていただくとともに、ご利用される皆様にとって、より情報が探しやすいよう努めました。

リニューアルに伴い、URL が変更になりました。ブラウザの「お気に入り」「ブックマーク」などに登録されている場合は、新サイト URL への登録変更をお願いいたします。

今後とも内容の充実を図るとともに、分かりやすく、最新の情報を発信してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

新サイト URL

<https://sites.google.com/view/tokyo-chueiken-kenkyubu>



VII あとがき

感染拡大による令和2年度の活動休止、令和3、4年度の全面オンラインによる活動を経て、本年度、都中英研研究部は対面による研究活動を再開しました。この2年間、部員が交流する場はオンラインやメールでのやりとりに限定され、研究活動を行う上で最も重要な議論、意見交換、情報共有が十分にできないことが度々ありました。しかし、その一方でリモート運営のノウハウを獲得しました。ワークショップや研究発表会をオンラインで実施したことにより、参加する方の数が増えたというメリットもありました。

本年度は、研究部会を対面で実施する中で、「研究部推奨語彙リスト」を活用した部員相互による発表（マイクロ・ティーチング）を行い、実践を踏まえた研究活動を推進するとともに、研究部員の授業力の向上を図りました。昨年度から継続してきた「英語で書きたかったけれども書けなかった日本語」についても、直接的な議論の場を得て、新たな考察を加えることに繋がりました。研究部の語彙指導の実践研究が、授業、生徒指導のお役に立てることができましたら幸いです。研究部の研究内容は発展途上の部分もございます。皆様からのフィードバックもいただければ幸いです。

2024年2月22日、研究発表会・公開授業は4年振りの対面実施となりました。会場校の体育館で行う公開授業は、都中英研で最大の恒例行事であり、これを再開できたことは、研究部にとって大きな喜びです。研究発表会は対面実施となりましたが、研究冊子「語いと英語教育」は、昨年度と同様にPDFファイルによるペーパーレスでの発行となりました。研究発表の資料、公開授業の学習指導案についても紙面での配布を見直し、参加者の皆様がウェブサイトからダウンロードすることにしました。今後、研究部ホームページのさらなる充実を図ってまいります。

最後に、研究発表会・公開授業の実施にあたり快くお引受けいただきました、渋谷区立松濤中学校の皆様、研究活動と授業を温かくご指導いただきました、都留文科大学の三浦 幸子先生、日頃より研究部の活動をサポートしていただきました都中英研役員会の皆様、そして、お忙しい中、本研究発表会や8月のワークショップにご参加いただきました都中英研会員の皆様に心より感謝申し上げます。

令和6年2月22日

東京都中学校英語教育研究会 研究部
部長 溪内 明（文京区立本郷台中学校）

巻末資料 1

東京都中学校英語教育研究会 研究部のあゆみ

東京都中学校英語教育研究会・研究部では、1976 年（昭和 51 年）より語彙指導に関する研究や実践発表を中心に活動している。毎年 2 月に研究発表と研究授業（公開授業）を実施し、研究冊子「語いと英語教育」を発行している。

1976（昭和 51）年度 「英語教師のニードとその資料源」

研究授業者：森永 誠 （北区立赤羽台中学校）

指 導 講 師：福田 大昭 （都立教育研究所）

1977（昭和 52）年度 「英語教師のニードとその資料源 その 2」

「外来語と英語教育（1）」

－小学校高学年教科書に現れた外来語リスト－

研究授業者：里見 光昭・宗政 剛郷（千代田区立麴町中学校）

指 導 講 師：若林 俊輔 （東京学芸大学）

1978（昭和 53）年度 「外来語と英語教育（2）」

－中学校英語教科書に現れた外来語リスト－

研究授業者：野中 清 （江東区立深川第二中学校）

指 導 講 師：若林 俊輔 （東京学芸大学）

1979（昭和 54）年度 「外来語と英語教育（3）」

－外来語の強勢付加によっておこる変化－

研究授業者：萩野 浩・須田 昌義（千代田区立一橋中学校）

指 導 講 師：若林 俊輔 （東京学芸大学）

1980（昭和 55）年度 「外来語と英語教育（4）」

－英語の意味別頻度と外来語・英語の意味とのかさなり－

研究授業者：後関 正明（墨田区立両国中学校）

指 導 講 師：森住 衛 （大妻女子大学）

1981（昭和 56）年度 「外来語と英語教育（5）」

－フォニックス（つづり字と発音のルール）－

研究授業者：小林 幸子（千代田区立練成中学校）

指 導 講 師：若林 俊輔 （東京学芸大学）

1982 (昭和 57) 年度 「外来語と英語教育 (6)」

－選定語いについて－

研究授業者：小西 照明 (足立区立伊興中学校)

指導講師：堀口 俊一 (東京学芸大学)

1983 (昭和 58) 年度 「語いと英語教育 (7)」

－選定語い (2)・発表語い (1)・外来語と英語教育 (7)－

研究授業者：長 勝彦 (江東区立第三亀戸中学校)

指導講師：若林 俊輔 (東京外国語大学)

1984 (昭和 59) 年度 「語いと英語教育 (8)」

－発表語い (2)・外来語と英語教育 (8)－

研究授業者：蔦原 秀子 (新宿区立西戸山中学校)

指導講師：森住 衛 (大妻女子大学)

1985 (昭和 60) 年度 「語いと英語教育 (9)」

－「英語基本語い 1000 語」と

「補足 460 語・外来語 (英語) 400 語」 Interim Report

「外来語と英語教育 (9)」言葉遊びをとり入れての指導実践例－

研究授業者：長 勝彦 (墨田区立両国中学校)

指導講師：若林 俊輔 (東京外国語大学)

1986 (昭和 61) 年度 「語いと英語教育 (10)」

A. 英語・基本語い 1000 語・Appendices

B. 授業の中でどのように語いをふやすか

C. CLT (Communicative Language Teaching) について

研究授業者：日 基 滋之・Ms. Yvonne Broekman (Australia)

(新宿区立牛込第三中学校)

指導講師：隈部 直光 (大妻女子大学)

1987 (昭和 62) 年度 「語いと英語教育 (11)」

- A. 基本語いの定着化－授業の中でどのように語いをふやすか(Part2)
(Bingo Game, Guess Work, Pair Work & Skit を行って)
- B. CLT (Communicative Language Teaching) と CF (Communicative Function) について
－東京都公立中学校で使用されている 4 種類の教科書に現れる
Functions (言語機能) / Forms (言語形式) の学年別 Function List－
- C. Assistant English Teacher に関するアンケート調査のまとめ
－AET 導入の年数・採用方法・派遣状況・派遣時数・その他－
研究授業者：青木 弘子・Mr. Phillip Roberts (Australia)
(新宿区立牛込第三中学校)
指 導 講 師：塩澤 利雄 (宇都宮大学)

1988 (昭和 63) 年度 「語いと英語教育 (12)」

- A. NHK ラジオ続基礎英語 (1986. 4～1987. 3) の dialogs に現れる
伝達機能とその言語形式
- B. 日常の授業で活用できる伝達機能とその言語形式
研究授業者：福井 康・Ms. Robarta Schudrick (U.S.A.)
(千代田区立九段中学校)
指 導 講 師：萩野 浩 (聖徳短期大学)

1989 (平成元) 年度 「語いと英語教育 (13)」

- CLT (Communicative Language Teaching) と CF (Communicative Functions)
について
東京都公立中学校で使用されている 4 種類の教科書に現れる
Functions (言語機能) / 例文の List
研究授業者：鶴田 峰子・太郎良 博 (大田区立南六郷中学校)
指 導 講 師：斎藤 誠毅 (神奈川大学)

1990 (平成 2) 年度 「語いと英語教育 (14)」

- A. 日常の授業で活用できる言語機能とその言語形式 (続)
－実情報にかかわる機能－
- B. 東京都公立中学校における英語教育実態調査報告
研究授業者：山本 展子・Mr. Frank Berberich (U.K.)
(江東区立深川第七中学校)
指 導 講 師：島岡 丘 (筑波大学)

1991 (平成 3) 年度 「語いと英語教育 (15)」

日常の授業で活用できる言語機能とその言語形式 (続々)
－意志・感情にかかわる機能の言語形式の Register について－
研究授業者：二宮 正男 (狛江市立狛江第一中学校)
指 導 講 師：青木 昭六 (愛知学院大学)

1992 (平成 4) 年度 「語いと英語教育 (16)」

A. Teacher Talk (1)
B. 日常の授業で活用できる言語機能とその言語形式
－意志・感情にかかわる機能の言語形式の Register に対する
Native Speaker の Comments－
研究授業者：北原 延晃 (杉並区立和田中学校)
指 導 講 師：上田 明子 (津田塾女子大学)

1993 (平成 5) 年度 第 17 回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会東京大会

Teacher Talk (1)
研究授業者：杉本 薫 (墨田区立両国中学校)
指 導 講 師：若林 俊輔 (東京外国語大学)

1993 (平成 5) 年度 「語いと英語教育 (17)」

Teacher Talk (2)
研究授業者：重松 靖 (府中市立府中第七中学校)
指 導 講 師：金谷 憲 (東京学芸大学)

1994 (平成 6) 年度 「語いと英語教育 (18)」

Teacher Talk (3)
研究授業者：三浦 邦彦 (足立区立第三中学校)
指 導 講 師：森永 誠 (聖徳大学短期大学部)

1995 (平成 7) 年度 「語いと英語教育 (19)」

Teacher Talk (4)
研究授業者：石井 亨・Mr. John Walding(U.K.) (江東区立南砂中学校)
指 導 講 師：佐野 正之 (横浜国立大学)

1996 (平成 8) 年度 「語いと英語教育 (20)」

研究部の歩みと「語いと英語教育」第 1 集～19 集のダイジェスト版
研究授業者：長 勝彦 (墨田区立両国中学校)

1997 (平成 9) 年度 「語いと英語教育 (21)」

Teacher Talk (5)

Student Talk (1)

研究授業者：太田 洋 (東京学芸大学附属世田谷中学校)

指 導 講 師：投野 由紀夫 (東京学芸大学)

1998 (平成 10) 年度 「語いと英語教育 (22)」

Student Talk (2)

研究授業者：原田 博子 (江東区立深川第五中学校)

指 導 講 師：和田 稔 (明海大学)

1999 (平成 11) 年度 「語いと英語教育 (23)」

Student Talk (3)

研究授業者：小柳 守生 (葛飾区立亀有中学校)

指 導 講 師：松本 青也 (愛知淑徳大学)

2000 (平成 12) 年度 「語いと英語教育 (24)」

Student Talk (4)

研究授業者：阿久津 仁史 (文京区立第八中学校)

指 導 講 師：緑川 日出子 (昭和女子大学)

2001 (平成 13) 年度 「語いと英語教育 (25)」

語い指導 (1)

研究授業者：門松 裕之・佐藤 恵美 (墨田区立文花中学校)

指 導 講 師：山内 豊 (東京国際大学)

2002 (平成 14) 年度 「語いと英語教育 (26)」

語い指導 (2)

研究授業者：伊地知 義信 (豊島区立西巢鴨中学校)

指 導 講 師：望月 正道 (麗澤大学)

2003 (平成 15) 年度 「語いと英語教育 (27)」

語い指導 (3)

研究授業者：明石 達彦 (港区立御成門中学校)

指 導 講 師：木村 松雄 (青山学院大学)

2004 (平成 16) 年度 「語いと英語教育 (28)」

語い指導 (4)

研究授業者：関口 智 (葛飾区立常盤中学校)

指 導 講 師：相澤 一美 (東京電気大学)

2005 (平成 17) 年度 「語いと英語教育 (29)」

語い指導 (5)

研究授業者：溪内 明 (大田区立東調布中学校)

指導講師：卯城 祐司 (筑波大学)

2006 (平成 18) 年度 「語いと英語教育 (30)」

語い指導 (6)

研究授業者：田口 徹 (府中市立府中第二中学校)

指導講師：長 勝彦 (武蔵野大学)

2007 (平成 19) 年度 「語いと英語教育 (31)」

語い指導 (7)

研究授業者：岸 由季 (町田市立山崎中学校)

指導講師：猪俣 俊哉 (北海道室蘭市立陣屋小学校)

2008 (平成 20) 年度 「語いと英語教育 (32)」

語い指導 (8)

研究授業者：谷口 弘美 (東村山市立東村山第二中学校)

パネラー：田口 徹 (府中市立府中第二中学校)

本多 敏幸 (千代田区立九段中等教育学校)

モデレーター：相沢 秀和 (昭島市立瑞雲中学校)

2009 (平成 21) 年度 「語いと英語教育 (33)」

語い指導 (9)

研究授業者：岡崎 伸一 (品川区立小中一貫校日野学園)

指導講師：西垣 知佳子 (千葉大学)

2010 (平成 22) 年度 「語いと英語教育 (34)」

辞書指導 (1)

研究授業者：小川 登子 (葛飾区葛美中学校)

指導講師：小菅 敦子 (東京学芸大学附属世田谷中学校)

2011 (平成 23) 年度 「語いと英語教育 (35)」

辞書指導 (2)

研究授業者：上尾 栄美子 (江戸川区立篠崎第二中学校)

指導講師：日臺 滋之 (玉川大学)

- 2012 (平成 24) 年度 「語いと英語教育 (36)」
辞書指導 (3)
研究授業者：金子 健次郎 (大田区立田園調布中学校)
指導講師：田尻 悟郎 (関西大学)
- 2013 (平成 25) 年度 「語いと英語教育 (37)」
辞書指導 (4)
研究授業者：本多敏幸 (千代田区立九段中等教育学校)
パネラー：重松 靖 (国分寺市立第三中学校長)
本多敏幸 (千代田区立九段中等教育学校)
杉本 薫 (東京都立両国高校附属中学校)
田口 徹 (千代田区立九段中等教育学校)
北原延晃 (港区立赤坂中学校)
モデレーター：石井 亨 (千代田区立九段中等教育学校)
- 2014 (平成 26) 年度 「語いと英語教育 (38)」
語いサイズを広げる指導の工夫 (1)
研究授業者：北原 延晃 (港区立赤坂中学校)
指導講師：中嶋 洋一 (関西外国語大学)
- 2015 (平成 27) 年度 「語いと英語教育 (39)」
語いサイズを広げる指導の工夫 (2)
研究授業者：久保野 りえ (筑波大学附属中学校)
指導講師：新里 眞男 (関西外国語大学)
- 2016 (平成 28) 年度 「語いと英語教育 (40)」
語いサイズを広げる指導の工夫 (3)
研究授業者：太田 裕也 (八王子市立第六中学校)
指導講師：久保野 雅史 (神奈川大学)
- 2017 (平成 29) 年度 「語いと英語教育 (41)」
語いサイズを広げる指導の工夫 (4)
研究授業者：関口 智 (江戸川区立清新第一中学校)
指導講師：阿野 幸一 (文教大学)
- 2018 (平成 30) 年度 「語いと英語教育 (42)」
研究部基本語い 1200 と語い指導再考 (1)
研究授業者：前川 卓哉 (渋谷区立松濤中学校)
指導講師：内田 浩樹 (国際教養大学大学院)

2019 (令和元) 年度 「語いと英語教育 (43)」

研究部基本語い 1200 と語い指導再考 (2)

研究授業者：水嶋 諒 (江東区立第四砂町中学校)

指導講師：日基 滋之 (玉川大学)

2020 (令和2) 年度 新型コロナウイルス感染拡大により、研究冊子の発行および研究発表会・研究授業は中止。

2021 (令和3) 年度 「語いと英語教育 (44)」

研究部中学校推奨語い 1800

研究部小学校推奨語い 700

研究発表者：前田 宏美 (港区立港南中学校)

高杉 達也 (東京都立小石川中等教育学校)

岡 大佑 (足立区立江南中学校)

能美 真弓 (荒川区立第三中学校)

指導講師：日基 滋之 (玉川大学)

* 新型コロナウイルス感染拡大のため、研究発表会をオンラインで実施。研究授業は中止。

2022 (令和4) 年度 「語いと英語教育 (45)」

中学校・小学校検定教科書における語彙

中学校検定教科書における太字の単語

中学生が書く活動で使用した語彙 (中間報告)

「研究部中学校推奨語い 1800」「研究部小学校推奨語い 700」
に基づく実践例

研究発表者：前田 宏美 (港区立港南中学校)

高杉 達也 (筑波大学附属中学校)

多田 翔 (江東区立第三砂町中学校)

松野 麻里恵 (港区立三田中学校)

指導講師：日基 滋之 (拓殖大学)

* 新型コロナウイルス感染拡大のため、研究発表会をオンラインで実施。研究授業は中止。

2023 (令和5) 年度 「語いと英語教育 (46)」

「研究部推奨語い 1800」に基づく語彙指導実践例

生徒が英語で書きたいけれども書けなかった日本語

研究発表者：高杉 達也 (筑波大学附属中学校)

岡 大佑 (東京都立小石川中等教育学校)

研究授業者：橋本 晋作 (渋谷区立松濤中学校)

指導講師：三浦 幸子 (都留文科大学)

巻末資料 2

今年度の活動記録

第1回部会 4月25日（対面会議）

1. 部内役割分担の確認
2. 本年度の研究計画・内容について
3. 研究部ワークショップの日程や内容の確認

第2回部会 5月23日（対面会議）

1. 研究推進（実践発表） 発表者 高杉 達也
2. 研究部ワークショップ（実施案）

第3回部会 6月15日（対面会議）

1. 研究推進（実践発表） 発表者 島田 拓、長谷川 眞司
2. 研究部ワークショップ（実施方法の確認、発表者や案内文書等の決定）

第4回部会 7月6日（対面会議）

1. 研究推進（実践発表） 発表者 多田 翔、大島 良一
2. 研究部ワークショップ（発表内容、運営方法の確認、参加者応募状況の報告など）

第5回部会 7月25日（対面会議）

1. 研究部ワークショップ（会場準備、ICT 機器や音響の動作確認など）

第20回研究部ワークショップ

8月1日（対面による開催）

「生徒が主体的に授業に参加するための工夫 ～アクティブラーニング～」

島田 拓、多田 翔

「練習量を増やす工夫」 一ノ瀬 麻子

「思考力・判断力・表現力の育成 ～小中高連携を意識して～」 岡 大佑

8月4日（Web 会議システム Zoom による開催）

「即興で話す力を高める授業実践その2 ～中間指導と評価について～」

前田 宏美、松野 麻里恵

「主体的に学習に取り組む態度の評価」 大島 良一

「中学での語彙指導を改めて考えてみよう」 高杉 達也

第6回部会 9月14日（対面会議）

1. 研究部ワークショップ振り返り、反省
2. 研究推進（実践発表、研究テーマ、今後の予定） 発表者 福島 恵子、一ノ瀬 麻子
3. 公開授業・研究発表会（実施日時、研究授業者、実施方法などの提案）

第7回部会 10月10日（対面会議）

1. 研究推進（研究計画、担当分担など）
2. 公開授業・研究発表会（運営本部、講師・助言者の決定、担当分担の確認）

第8回部会 11月16日（対面会議）

1. 研究推進（部員同士による意見交換、研究紀要について）
2. 公開授業・研究発表会（実施要項、案内文書など）
3. 研究部ウェブサイトについて

第9回部会 12月12日（対面会議）

1. 研究推進（研究冊子原稿の検討）
2. 公開授業・研究発表会（指導案の検討、運営、案内など）

第10回部会 12月26日（対面会議）

1. 研究冊子原稿の校正
2. 公開授業・研究発表会（当日の発表内容の確認）

第11回部会 1月18日（対面会議）

1. 研究発表会発表リハーサル
2. 公開授業・研究発表会（当日の発表内容、分担、流れ等の最終確認）

研究部研究授業・研究発表会 2月22日（対面による開催）

1. 研究授業 授業者 橋本 晋作（渋谷区立松濤中学校）
2. 研究協議
研究部 令和5年度研究発表
「研究部推奨語い1800」に基づく語彙指導実践例
生徒が英語で書きたいけれども書けなかった日本語
3. 指導助言・講演 講師 三浦 幸子（都留文科大学）

第12回部会 3月（対面会議）

1. 研究発表会の反省
2. 今年度活動の反省
3. 来年度の研究内容、活動計画の検討

今年度の研究に携わった研究部員（東京都中学校英語教育研究会研究部）

溪内 明	（文京区立本郷台中学校）	前田 宏美	（東京都立立川国際中等教育学校）
高杉 達也	（筑波大学附属中学校）	橋本 晋作	（渋谷区立松濤中学校）
水嶋 諒	（江東区立第四砂町中学校）	原田 博子	（文京区立第十中学校）
中川 智子	（大田区立志茂田中学校）	森沢 俊彦	（日野市立日野第三中学校）
島田 拓	（足立区立入谷南中学校）	松野 麻里恵	（港区立三田中学校）
大島 良一	（江戸川区立篠崎第二中学校）	多田 翔	（江東区立第三砂町中学校）
福島 恵子	（清瀬市立清瀬第三中学校）	一ノ瀬 麻子	（港区立六本木中学校）
岡 大佑	（東京都立小石川中等教育学校）	長谷川 眞司	（小平市立小平第三中学校）
小沼 櫻	（府中市立府中第六中学校）	五井 沙織	（板橋区立高島第一中学校）
小澤 美沙姫	（杉並区立泉南中学校）	齋藤 開	（品川区立鈴ヶ森中学校）

《研究部のホームページ <https://sites.google.com/view/tokyo-chueiken-kenkyubu>》

発 行	東京都中学校英語教育研究会 会 長 平岡 栄一（葛飾区立常盤中学校長）
編 集	東京都中学校英語教育研究会研究部 研究部長 湊内 明（文京区立本郷台中学校）
発行日	令和6年2月22日